

第4回ワーキンググループ会議

【鑑賞WG】 議事要旨

日時：平成28年10月18日（火） 13：30～15：30

場所：本庁舎2階 21会議室

出席：委員3名、事務局1名、北大2名

議題 「無目的利用」、「定常・定期利用」について

■ 前回の振返りと今後の予定について

前回の検討委員会の報告

- ・ 基本計画はWGでアイデアを出し、建設検討委員会でWGの意見を発展させる形で進めていく。今年度は施設でどのような活動がしたいかといった、施設活用のアイデアを話し合うことを予定しており、翌年度からどんな施設や設備が必要なのかといった、ハードの部分を考える予定である。苫小牧アイデア集の報告はとても評判が良く、それらのアイデアの課題を発見するというよりは、実行するにはどうしたらよいか、連携の可能性や発展性のある意見を出していただいた会であった。

配布資料について

- ・ 「他事例からのアイデア集」は、今後WGでアイデアを出してもらうために事務局で参考になりそうな先進事例をまとめたものである。最終的な目標としては、これらをベースにした苫小牧独自の活動事業アイデアを作っていきたいと考えている。キーワードは基本構想の中で話し合われたものであり、各会議ではキーワードに基づいた話し合いを進めていく。
- ・ 「苫小牧版アイデア集」は、これまでのWGで得られた意見を考慮しながら、苫小牧ではどのようなことができそうかというアイデアをまとめたものである。
- ・ 「穴埋めシート」は、キーワードごとにアイデアをまとめるためのシートである。視覚的に議論の不足などを確認する役割のものとして認識してほしい。

■ 苫小牧版アイデア集の紹介

キーワード「アウトリーチ」に関するアイデア

1. じわじわキャンペーン

- ・ まずは苫小牧の文化を育てていく必要があるという意見を参考に、施設の開館前からプロを招き、市民に文化芸術に親しんでもらうというイベントのアイデアである。

2. ふらっとコンサート

- ・ 現在プロと市民が一緒になった活動を行っていて今後も続けていくべきとの意見や、市内では福井萌さんなど若手のプレイヤーが育ってきているという意見を参考に、プロやセミプロと市民が一緒に楽しめるイベントのアイデアである。

3. ○×デー

- ・ 今後ホールに様々な機能や活動が複合されていく中で、使い方のバランスを検討すべきとの意見を参考に、ジャンルごとに「ダンスデー」のようなテーマを決めた日を設け、施設を均等に使えるようにする仕組みのアイデアである。例えば、映画館におけるシニア割やメンズデーのような考え方である。

4. トクトク予約

- ・ 可児市における「DAN-DAN チケット」と同様の仕組みを苦小牧にも取り入れるべきという意見を参考に、施設の利用料金を徐々に下げていくことで、文化芸術に興味のない人たちでも気軽に参加できるようになる予約サービスのアイデアである。

キーワード「圏域」に関するアイデア

1. カルチャーフェスティバル

- ・ 「活性の火」の紹介があったが、そのような既存の祭と新しい施設の活動を連動させることで、文化芸術に興味のない人たちが親しむきっかけになるというアイデアである。

2. びっくり箱プロジェクト

- ・ 施設にジャンルごとのディレクターが常駐してほしいという意見を参考に、そのディレクターが毎年イベントを持ち寄って開催し、施設独自のオリジナリティを出すアイデアである。

3. 施設コンシェルジュ

- ・ アイビープラザなどの既存施設との連携を取り、新しい施設の予約が取れなかった時に、他施設のサービスを提供できるようにするアイデアである。

4. 苦小牧アワード

- ・ 新しい施設独自のコンクールを設けるアイデアである。そこで、若手の演奏者たちが交流を図ることができる。

検討委員会の報告

- ・ 検討委員会で、他 WG のアイデアを共有することができ、よりイメージが広がった。WG で共有するのは次々回以降とのことであったが、もっと早い時期に共有し検討していきたい。各 WG のアイデアは検討委員の方にも好評であり、盛り上げていく機運が感じられる議論であった。

今後の予定

- ・ 今回までの過去3回の各WGで議論した内容を前回の検討委員会で報告した。検討委員からは各WGのアイデアを組み合わせた新たな提案が出されていた。今後のWGでは、さらに議論の深まった次々回くらいを目安に、他WGのアイデアを紹介し検討を進めていきたい。
- ・ 今回のWGはこれまでとは趣向を変えた議論を予定している。展示・窓口WGでは、企画のプロをゲストスピーカーとして招き、どのようなステップでアイデアを具現化していくのか勉強しながら新しいアイデアを考えていく。鑑賞WGでは、これまで既にたくさんのアイデアが出されているので、これまで事務局が作成していた「苫小牧版アイデア集」を、今回は議論の中で作成する意気込みでより具体的な検討にしてみたい。

■ 前回の振り返りを受けて

びっくり箱プロジェクトについて

- ・ 「びっくり箱プロジェクト」はとてもいいアイデアだと思う。フラッシュモブ（インターネット等で呼びかけた不特定多数の人々が申し合わせ、雑踏の中の歩行者を装って通りすがり、公共の場に集まり突如としてパフォーマンスを行って、周囲の関心を引いたのち解散する行為）のようなイベントを市内で実践してみたい。
- ・ ホールの中庭やエントランスなど全面大きなガラスで開放された空間で「ピクニックコンサート」がしたい。苫小牧は札幌よりも積雪量、寒暖差ともに小さいため冬でも比較的過ごしやすく屋外での活動がしやすい環境にあるのではないかな。

苫小牧アワードについて

- ・ 「苫小牧アワード」に関連して、市内の様々な企業から資金を募り、若手のアーティストの海外留学を援助する奨学金のような仕組みがあるといい。苫小牧から世界にはばたく人材を育て、地元に戻ってきたとき新聞で周知し、市民が鑑賞しに来たり子供たちがその姿を見て後に続いたりするといい。
- ・ 家族だけでなく、苫小牧の地元全体で応援するという形がとていい。そうすれば、恩返しの気持ちで地元に戻ってきて活動してくれることもあるかもしれない。
- ・ 前回の議論では取りこぼしていた内容であり大切な視点である。
- ・ 企業側は援助をすることで新しく文化芸術に興味を持つきっかけにもなり、自社の宣伝にもつながるので、援助する・される側双方にメリットがあるだろう。

■ キーワードをもとにした意見交換

- ・ 「無目的利用」は、特に文化芸術活動に興味のない人が施設にフラッと訪れた際、イベントの情報が得られるなどして再度施設に行ってみたくなるというような仕掛けを

考えるということである。「定常・定期利用」は、それぞれの活動や機能の中で、常に利用されている使われ方を、市民に公開していくアイデアである。例えば、音楽のリハーサルの機会は常にあるので、それを無料で公開することで、施設に陶芸目的で来訪していた人がたまたま音楽を聴く機会に遭遇するというようなことである。

無目的利用について

- ・市民を文化芸術活動に巻き込んでいこうとする際、たとえイベントを開いたにしても全く興味がない人もいると思われる。そのような人は、生活の上で必要なものがないと、まずホールに来ることさえないだろう。ATM やカフェ・レストランを入れたり、イオンが行っているような無料送迎バスの仕組みを作ってホールを経由させたりするとよいのではないか。
- ・とまチョップポイントカードのポイント（イベント出席や施設来訪でポイントがもらえて実際に1ポイント1円として使えるカード）が欲しい主婦が多いので、市民ホールのイベントでポイントを付けるなどすると来訪するきっかけになるのではないか。
- ・とまチョップポイントカードの存在を知らなかった。非常に良い取組だと思うが、市内で周知は行っているのか。
→特に大きく周知はしていないが、10月23日の市民フォーラムでは、とまチョップポイントが100ポイント付く予定である。
- ・日ごろから全く運動をしない人が、マックスバリューに行くと1ポイントもらえるという理由だけで毎日歩いて通うようになった話を聞き、そのポイントのシステムは市民ホールにも利用できると思った。
- ・苫小牧で以前に行われた演劇鑑賞会を実施したい。方法としては、スペインで行われているシステムが参考になると思われる。フラメンコ好きで組織された団体が、会員で資金を出し合ってホールを建設し、どのフラメンコ演者を招くかを会員が考え会員だけが鑑賞できるというシステムである。現代的には、クラウドファンディング(誰かの企画に対して賛同者がインターネットを経由して資金を提供すること)のような手法を用いてもいいかもしれない。
- ・近所にあるスーパーが毎週日曜日にプロを招きイベントを開催している。定期的に開催しているため、週末になるとイベントをなんとなく通って楽しめるという場所になっている。まずは市民が常に通う場所を定着させていく必要があるのではないか。
- ・スーパーの空間について、大型商業施設はイベントの時は楽しいが何もなければただの広い廊下になってしまっているのに対し、そこは常設でホールがありその周囲にはイスと机が置かれ、普段は家族連れがご飯を食べたり会話を楽しんだりしている。イベントとなると、そのホールは建物中央に位置するため、買い物をしている人やご飯を食べている人にもなんとなくイベントの音が聞こえ、ふらっと中央に近づいていきたくなる。このように、空間の作り方次第で立ち寄りが生み出される。

- ・札幌のチ・カ・ホも大道芸人などがイベントを行っていることもあり、その神戸のスーパーと同じような雰囲気が感じられるので参考になるのではないかな。
- ・「無目的利用」が行われるには、「天気良い日にまた行きたいな」と思うような繰り返し利用したくなる場所づくりが大切だと思う。例えば私は音楽好きなので、若手DJのミックスCDやバレエクラシックのリミックス(曲を再構成すること)が売られていれば、「あそこに行けば新しい音楽情報が得られるのではないかな。」と思い、ついつい行きたくなってしまいうだろう。このように、そこに行けば生活に便利なことを知れると思えることが重要である。
- ・テレビのモニターにデジタルサイネージ(街角の看板やポスターを電子化し、液晶パネルなどに画像や動画を配信するメディア)による広告があるが、データで入稿するので紙媒体より安く更新も簡易で便利である。屋内外に向けてイベントと連携した広告を出すべきである。例えば、ホールにおけるダンスの練習風景やイベントの告知、子供の大会の表彰の様子を載せる、訪れる身近なきっかけを増やす工夫である。
- ・新しい施設で馬を飼うなどして北海道らしさを出していけないかと思案していた。馬は無理にしても、動物がいることは、子供たちも餌をあげたくなり子供世代の利用を高めることにつながる。
- ・子供たちは子供たち用の映画を見たり遊んだりして交流を深めている間、その数時間だけ親は普段子供がいるとできないようなリフレッシュや親同士の交流を楽しむことができるという。
- ・無目的利用する場所になるには、人との出会いを生み出す場所であることが大切であろう。訪れた際に人やイベントなどに偶然に出会い、自分にもできそうな活動などが見つければ施設常駐のコンシェルジュに尋ねてみるという利用の仕方ができるといい。
- ・無目的利用を世代別に考えると、幼児世代はアスレチック遊具があれば訪れ、中高生世代は缶ジュースで滞在できる勉強空間、さらにその上の世代は友達同士でぼーっとできる場所やカフェがあれば訪れるだろう。無目的な利用でありながら暇つぶしにはなるという場所にすることが大事である。例えば、紋別市にある道立オホーツク流氷公園は入園無料であることを疑うほど使い勝手のいい場所である。屋外には大きな滑り台が2つあり、屋内には木製のおもちゃが用意されているので子供が楽しめる。また、親も美しい風景を見ているだけで楽しい。このように、どの世代も「あそこに行けば楽しい」と思えるような空間になるといい。
- ・苫小牧は現在そのオホーツク流氷公園のような代表的な場所がない。
- ・無目的で利用しに来る人のほとんどは、出会いを求めているように思う。出会いを生み出すものとして、カフェやコミュニティFMを設置するといいい。
- ・コミュニティFMに関して、検討委員会の委員の話によれば、設立されることはあるがリスナーが少なくなかなか難しいとのことである。
- ・キッズニアは子供にとってとてもいいイベントであり、新施設に朝市やカフェが入る

なら、その店員を子供たちが経験できる機会があるといい。子供が参加していれば、親や祖父母などの家族が訪れたり口コミが広がったりする。

- ・ 市民ホールを利用している人たちの集まりや様々なジャンル合同の音楽イベントなど面白いことを次々に起こしていくには、苫小牧の規模と環境はちょうどよく町の売りになるのではないかな。

- ・ 施設での大きなイベントを開催する前に、イベントや文化芸術に興味のない人のところに行き、イベント告知のための無料コンサートを実施してはどうか。また、文化庁の子供育成事業で苫小牧にプロの楽団を招きたいが方法が分からない。

→10月23日の市民フォーラムで招く衛氏は、文化庁の活動を行っているので興業やオーケストラを招く方法を知っていると思う。おそらく地域契約を結んでいると思われる。フォーラムの際に尋ねてみてはどうか。

- ・ 人同士が出逢う機会をつくれば活動はそのあとから連鎖的に起きてくると思う。しかし、「婚活パーティー」のような表現では直接的すぎて敬遠されてしまうので、例えば東京で例のある「異業種モーニング」のような朝食会を行ったり、「40歳集まれサミット」などと銘打ち苫小牧について同世代で語り合う場を設けるといい。

→「昭和54年会」など実際に語り合う場を設けている居酒屋が市内にある。

- ・ 市内には、サークルで広い部屋を借りてお昼に子供を連れた母親が集まり、仕切り役のおばあさんが子供の面倒を見つつ、皆で持ち寄った弁当を食べるというイベントがある。

- ・ 交通安全センターは活性化の視点からすると必要はないのではないかな。交通安全ワークショップはいいアイデアだと思うが、何もかも複合化すると中心部に何もなくなってしまうのである程度分散させたほうがいいのではないかな。その上で情報やミニコーナーだけホールにあって他の場所に行くきっかけになればいい。

→複合化に関しては、市民会館周辺の施設が公共施設白書の中で建物の老朽化が指摘され、人口減少の時代に複合化することを検討しているという状況である。(溝江)

→複合化のメリットは、ソフトとハードの両面がある。ハードについては、効率化するというメリットがある。例えば、施設毎に会議室があるよりはまとめて1つあった方が利用率が上がりメンテナンス費も削減できる。ソフトについては、相乗効果を見込むことができる。機能が集約されることにより、各施設で分散されていた活動が1つの場を集まり、新たな活動が生じる可能性がある。基本構想の議論では、交通安全センターが複合化されたとすればどのようなメリットが考えられるかを話し合い、免許更新で常に来る人がいるためそこをターゲットにイベントを仕掛ければ興味のない人にもついで利用を広げられるのではないかなという考えに至った。

定常・定期利用について

- ・ 「定常・定期利用」について、現在サークルで文化会館を借りており、自分の練習を

確認するため全部屋に鏡をつけてほしいとお願いしている。鏡が付けばより様々なジャンルの活動ができるようになると思う。

- ・ 新しい施設では、定期的に施設を使うサークル同士の異業種交流ができるといい。例えば、毎週金曜日の夜1時間限定で施設の空き部屋を使って、ヒップホップとバレエでコラボレーションイベントを行うというものである。皆経験したことのない分野には興味があり、他分野との共存共栄ができるとよい。
- ・ 施設を借りる側はどうしても自分たちの中でしか交流しようとしないので、施設を貸す側が借りる側同士の交流する機会を仕掛けてほしい。
- ・ 通勤バスを待っている際に毎日顔を合わせる人と挨拶を交わす関係になるまでに1年を要した経験がある。同様に、同じホールの中において常に顔を合わせていても、一歩前に出てコミュニケーションをとるにはきっかけが必要である。そのきっかけづくりを施設側が行い、空いている部屋や一緒に活動ができそうな団体を紹介できるようになればいい。また、そこに立ち寄った市民も参加できるような仕組みがあれば施設に行っただけで得したような気分になれるかもしれない。
- ・ 施設に総合ディレクターがいて、施設を使っている団体同士のマッチングを行い、一緒に活動・交流できるような提案をしてくれると有意義である。
- ・ 商工会議所で主催している税制セミナーを受講しようと思い電話した際、満員で断られたことがあり、市内でも満員になるセミナーがあることを知った。例えば、道の駅で開催している出汁セミナーなど、市内各所の人気のセミナーを町の中心に位置するホールで開催するといい。運動や音楽だけでなく、セミナーなど様々なイベントがあれば、多くの人が訪れてくれるようになるだろう。

議論のまとめ

- ・ 「無目的利用」を起こすには、まず文化芸術に興味関心の薄い市民が施設に訪れるようになるための基盤整備がポイントとなる。次に、市民が施設に訪れた際、どんなイベントでどんな仕掛けを用意すべきかのアイデアがポイントとなる。1つ目のポイントに関連する事例としては、資料の事例3の図書館機能があげられ、本は世代を超えて誰もが興味を持てるツールとして重要であり、興味のない人や目的のない人が施設に訪れるきっかけにすることができると考えられる。2つ目のポイントに関連する事例としては、事例1と2がある。事例1は、共用空間で映画上映会を実施するもので、重要な点は上映会という日常的なイベントを行っていることである。共用空間は誰もが訪れる場所なので、コンサートよりも敷居が低く誰もが興味を持てるイベントを行うようにする。事例2は、情報発信の方法について重点がある。例えば、講演の宣伝を館内装飾と連動して行うことで、訪れた人がイベントに気付きやすくする空間の仕掛けづくりが重要となる。
- ・ ここまでの議論をまとめると、「定常・定期利用」については、既存の活動の様子を公

開するということがポイントとなっていた。定常設置のステージの話があったが、公開リハーサルのような活動をどのように市民に見せていくかが重要となる。「無目的利用」については、人・活動の掛け合わせや出会いがポイントとなっていた。複合化のメリットとしても異業種交流は考えていくべきであろう。

■ 交通安全センターとの複合、お年寄りの利用

- ・ ここまでの議論で様々なアイデア出てきたので違う視点から検討を進める。「定常・定期利用」「無目的利用」というキーワードにこだわらず議論し、1つ目は、交通安全センターと様々な活動のコラボレーションについて、2つ目は、既に子供については議論されたのでお年寄りの利用について考えていきたい。

交通安全センターとの複合化について

- ・ 交通安全センターについて、交通安全指導の機会は子供には多い一方、お年寄りには少ないので、お年寄り向けの指導があるといいのではないか。事実として、交通事故に遭遇するのは子供よりもお年寄りの方が多いということである。
- ・ 映画や講演が始まる前の待ち時間に交通安全啓発の広告を流すといい。スポンサー制度の形をとり、待ち時間に交通安全啓発を行ってくれた団体には施設使用料を安くするなどの仕組みを作れば広告を出してくれるところも多いのではないか。
- ・ とまチョップポイントカードの宣伝など、市が市民に発信したいことも講演の前の待ち時間にアナウンスできるようになり便利である。
- ・ 市民ホールの館内のデジタルサイネージは、講演が始まる前はステージに向けて、終わった後は回転して反対側に向けて流れるようにするといい。

お年寄り利用について

- ・ お年寄りについては、施設に来る方法が問題であろう。月に1回でもいいのでコミュニティバスを走らせ市内を循環して施設に来る機会を作れるといい。
→単に公共交通機関の整備というだけでなく、施設来訪のきっかけになるいい提案だと思う。施設にもともと用のある人は公共交通機関を利用して自ら行くが、用のない人にとっては、月に1度無料で市の全域から施設に来て何かするということが来訪のきっかけが生まれて価値がある。
- ・ こどもの日ならキッズニア、敬老の日ならお年寄り用に「びっくり箱コンサート」など、日によってイベントが変わるといい。
- ・ 町内会行事の「ふれあいサロン」に1度参加した際、お年寄りが集まってご飯を持ち寄るイベントで活気があり楽しかった。
- ・ お年寄りで一芸に長けている人を講師にして子供たちを集めるといい。お年寄りは教えることが好きな人も多く、周囲には放課後に子供たちを招きたいと話すお年寄りも

いる。

- ・ お年寄りの利用だけを捉えるのではなく、子供を合わせた世代間の交流を生み出すことが重要である。
- ・ あるおばあさんに子育てを教わるサークルに参加した際、普段姑に言われ反発してしまふことでも関係のない人から言われると受け入れやすく感じた。孫が遠方にいてなかなか会えないお年寄りにとっても、子育て世帯とお年寄り世代が交流する機会が必要だと思う。
- ・ お年寄りから戦時中に履いていた靴や家の紹介を受けたり、戦時中の食事などを食べさせてもらったりするなど、子供がお年寄りから学ぶべきことは多い。
- ・ お年寄りと交流する機会は、人生の師匠になったり活動の支援金を出してくれたり、お互いマッチングが合えばとてもいい機会になると思う。
- ・ 色んなボランティアや活動のポスターを目にし、やる気になったとしても入るための手続きが億劫で実行に移せないことが多い。新しい施設では、気軽にお年寄りにボランティアや講師を募ったり、逆にお年寄りが若者にお手伝いをお願いしたり、具体的な生の情報が貼ってあるような場所があるといい。
- ・ 庁舎1階の掲示板は同じような機能で既にあり使える状態である。しかし市役所にはあまり取りに来ないだろう。
- ・ 市民ホールにそのような場所があるのはいい。行政がやるのではなく市民の人が気軽に貼れる手軽さはよいと思う。

その他意見

- ・ 苫小牧版アイデア集は市民に公開するべきではないか。
→市のホームページに公開する予定である。

■ 今後のスケジュール

次 回（第5回）：11月9日（水）13:30~@市役所2階21会議室

次々回（第6回）：1月20日（金）13:30~@北庁舎3階会議室